

# 報告書

2023年6月1日～2024年5月31日

第43期

株式会社IKホールディングス

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は2024年5月31日をもって、第43期(2023年6月1日から2024年5月31日まで)が終了いたしましたので、ここに営業の概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年8月

代表取締役社長兼COO 長野 庄吾



## 営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、人流の活発化やインバウンド需要の回復等により経済の正常化が一層進み景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、世界的な資源価格の高騰や為替の変動等を背景とした商品価格の値上げ等で消費マインドは依然として先行き不透明な状況が続くものと思われまます。

このような状況の下、当社グループはローリング方式による中期経営計画「IK WAY to 2026」を策定し、経営成績のV字回復達成に取り組んでまいりました。具体的には最重点商品と位置付けた韓国コスメのブーストアップを図るため、売り場の拡大と新たなブランド獲得に向けたブランドホルダーとの交渉、エンドユーザーに響く販促活動に取り組んでまいりました。また、経営理念であります「ファンづくり」をより一層実践するため、人事考課の評価要素に「お客様立場主義の実践シート」を取り入れました。

売上面では、収益基盤でありますセールスマーケティング事業での売り場確保と雑貨部門の立て直し強化に努め、自社のTVショッピングにおいては、収益重視に徹し放映枠をさらに絞り込んだ事業展開を実践してまいりました。

人的資本の強化といたしましては、将来の幹部候補育成を目的とした第2次ジュニアボードメンバー及び同じく第2次ベビーボードメンバーを選定し、1年間にわたり研修を続けてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高140億49百万円(前期比0.9%減)、営業利益3億41百万円(前期は2億24百万円の営業損失)、経常利益3億40百万円(前期は2億5百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純利益2億29百万円(前期は4億63百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。(売上は外部顧客への売上高を記載しております。)

## &lt;ダイレクトマーケティング事業&gt;

TVショッピングにおいては、収益性に拘り媒体効率を意識した放映方針に転換し、放映枠を絞り込んだ結果、売上高は大幅に減少いたしました。一方で、WEBショッピングでは定期購入型商品等が堅調に推移いたしました。韓国コスメのリアルショップは前期末の13店舗から不採算店9店舗を閉鎖し、新たに「hince」1店舗を新設いたしましたことから5店舗となりました。これらにより売上高は35億92百万円(前期比10.4%減)となり、営業利益は1億19百万円(前期は3億27百万円の営業損失)となりました。

## &lt;セールスマーケティング事業&gt;

売上高は、基盤ルートの生協ルートではほぼ横ばいの61億55百万円(前年同期比3.2%減)、通販ルートは15億1百万円(前年同期比21.2%減)、店舗ルートは韓国コスメの拡販が好調であったことから23億1百万円(前年同期比68.5%増)となり、営業利益は7億97百万円となりました。

なお持株会社体制の移行に伴い、全社費用の区分把握が可能になり、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を変更しております。このためセグメント別営業損益の対前期比は記載しておりません。

## &lt;ITソリューション事業&gt;

売上高は、主力商品であるチャットシステム「M-Talk」の売上は堅調であるものの僅かに微減し4億96百万円(前年同期比4.2%減)となり、営業利益は23百万円(前年同期比74.9%増)となりました。

## 会社が対処すべき課題

国内経済は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行後、社会経済活動が緩やかな回復傾向にありますものの、世界的な資源価格の高騰、円安基調の為替相場、価格転嫁による物価の高騰などにより、引き続き不透明な環境が続くと予想されます。

このような状況の中、当社グループはローリング方式による中期経営計画「IK WAY to 2027」を作成し計画達成のための重点施策として韓国コスメのプーストアップを掲げました。韓国コスメの売上高No.1を目指すために、取り扱いブランドの拡充と店舗及びECでの販売を強化してまいります。

また、生協マーケットを主とするセールスマーケティング事業では、経営理念であります「ファンづくり」の実践として「お客様立場主義」の徹底を図り、お客様からの更なる信頼獲得を得ることで、収益基盤の確立に努めてまいります。

さらに、一歩後退しておりました海外事業は当社グループの拡大には欠かせないマーケットでありますことから、海外進出している企業とのアライアンス等により、新たな商流を築いてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 主要な事業内容 (2024年5月31日現在)

事業区分	事業内容
ダイレクトマーケティング事業	テレビショッピング、インターネットショッピング、リアル店舗での「SKINFOOD」、「hince」など韓国化粧品販売の小売事業等
セールスマーケティング事業	生活協同組合、通信販売会社、小売店舗、海外パートナー企業への卸売事業等
ITソリューション事業	チャットシステム、音声通話録音システムの販売等

## 主要な営業所 (2024年5月31日現在)

営業所	所在地
当社	本社：名古屋市市中村区 本店：名古屋市市中村区
(連結子会社) 株式会社アイケイ	本社：名古屋市市中村区 東京支社：東京都中央区
(連結子会社) 株式会社フードコスメ	本社：東京都中央区
(連結子会社) 株式会社プライムダイレクト	本社：名古屋市市中村区 東京支社：東京都中央区
(連結子会社) アルファコム株式会社	本社：東京都千代田区
(連結子会社) 艾瑞碧(上海)化粧品有限公司	中国上海市
(連結子会社) I.K Trading Company Limited	香港九龍

# 営業成績及び財産の状況推移

## ①企業集団の財産及び損益の状況

区分	第40期 (2021年5月期)	第41期 (2022年5月期)	第42期 (2023年5月期)	第43期 (2024年5月期)
売上高(千円)	20,754,610	16,335,372	14,179,066	14,049,266
経常利益又は経常損失(△) (千円)	730,620	△323,419	△205,196	340,056
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社 株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	321,317	△905,533	△463,533	229,458
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失(△) (円)	42.60	△115.95	△60.34	29.79
総資産(千円)	7,226,486	7,378,271	6,788,751	6,007,212
純資産(千円)	3,557,475	2,504,647	1,970,395	2,170,245
1株当たり純資産額(円)	451.96	321.94	249.52	278.69

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。  
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第41期の期首から適用しており、第41期以降に係る財産及び損益については当該会計基準等を適用したあとの指標等となっております。

## ②当社の財産及び損益の状況

区分	第40期 (2021年5月期)	第41期 (2022年5月期)	第42期 (2023年5月期)	第43期 (2024年5月期)
売上高(千円)	11,934,476	10,883,024	5,325,545	683,632
経常利益又は経常損失(△) (千円)	323,897	90,449	△477,219	67,071
当期純利益又は当期純損失(△) (千円)	146,846	△147,630	△492,882	50,701
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失(△) (円)	19.47	△18.90	△64.16	6.58
総資産(千円)	6,055,471	6,175,860	4,618,305	4,728,144
純資産(千円)	2,933,621	2,638,720	2,076,561	2,105,454
1株当たり純資産額(円)	372.72	339.41	263.33	270.29

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。  
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第41期の期首から適用しており、第41期以降に係る財産及び損益については当該会計基準等を適用したあとの指標等となっております。  
3. 第42期の売上高及び総資産等の大幅な変動は、2022年12月1日付の持株会社体制への移行によるものであります。

## 資産の部

流動資産：**5,023,827**千円

（前期末比：704,276千円減）

固定資産：**983,385**千円

（前期末比：77,262千円減）

## 負債・純資産の部

流動負債：**2,482,341**千円

（前期末比：1,284,002千円減）

固定負債：**1,354,625**千円

（前期末比：302,613千円増）

純資産：**2,170,245**千円

（前期末比：199,850千円増）

## 資産、負債及び純資産の状況

### （資産）

当連結会計年度末の流動資産につきましては前連結会計年度末に比べ704百万円減少しました。主な流動資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が111百万円増加したと、「現金及び預金」が395百万円、「商品及び製品」が459百万円それぞれ減少したことによります。

当連結会計年度末の固定資産につきましては前連結会計年度末に比べ77百万円減少しました。主な固定資産の変動は、「無形固定資産」が58百万円減少したことによります。

この結果、当連結会計年度末の総資産は6,007百万円となり、前連結会計年度末と比べ781百万円減少しました。

### （負債）

当連結会計年度末の流動負債につきましては前連結会計年度末に比べ1,284百万円減少しました。主な流動負債の変動は、「短期借入金」が1,350百万円減少したことによります。

当連結会計年度末の固定負債につきましては前連結会計年度末に比べ302百万円増加しました。主な固定負債の変動は、「長期借入金」が307百万円増加したことによります。

この結果、当連結会計年度末の負債は3,836百万円となり、前連結会計年度末と比べ981百万円減少しました。

### （純資産）

当連結会計年度末の純資産につきましては前連結会計年度末に比べ199百万円増加しました。主な純資産の変動は、「利益剰余金」が229百万円増加したことによります。

## 連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	前連結会計年度 (自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)	当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)
売上高	14,179,066	14,049,266
売上総利益	5,950,868	5,845,344
営業利益又は営業損失(△)	△224,877	341,749
営業利益率(%)	—	2.43%
経常利益又は経常損失(△)	△205,196	340,056
経常利益率(%)	—	2.42%
親会社株主に帰属する当期純利益 又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△463,533	229,458

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

### ・売上高減の主な要因

当連結会計年度の売上高は140億49百万円(前年同期比0.9%減、1億29百万円減)となりました。セグメント毎に分析しますと、ダイレクトマーケティング事業の売上高が35億92百万円(前期比10.4%減、4億15百万円減)、セールスマーケティング事業の売上高は99億57百万円、前期比3.17%増、3億96百万円増)、I Tソリューション事業の売上高は4億96百万円(前期比4.24%減、21百万円減)となりました。

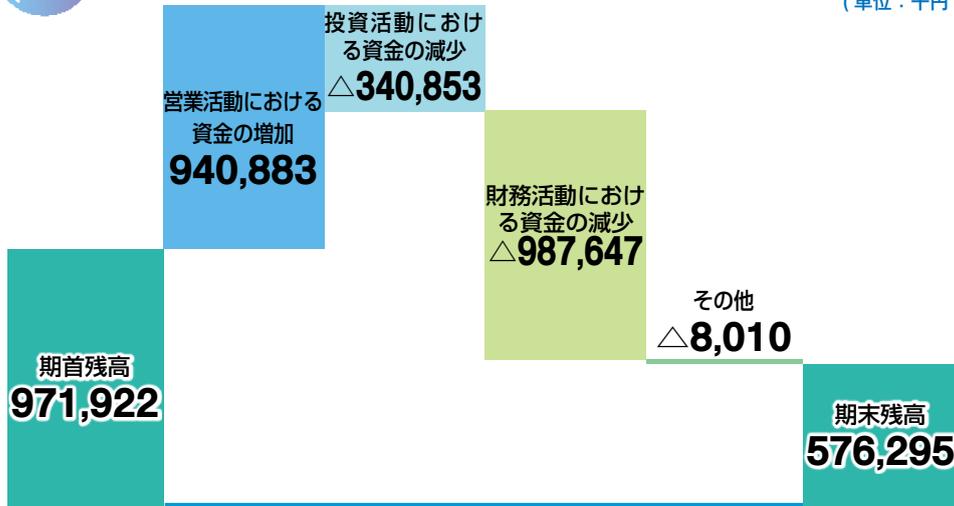
### ・営業利益の内訳

当連結会計年度の営業利益は3億41百万円(前期は△2億24百万円)となりました。セグメント毎に分析しますと、ダイレクトマーケティング事業の営業利益が1億19百万円(前期△3億27百万円)、セールスマーケティング事業の営業利益が7億94百万円(前期比124.53%増、4億42百万円増)、I Tソリューション事業の営業利益が23百万円(前期比74.94%増、9百万円増)、営業利益の調整額が△5億98百万円となりました。

## 連結包括利益計算書

（単位：千円）

科目	前連結会計年度 (自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)	当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)
当期純利益又は当期純損失(△)	△463,533	229,458
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,165	—
為替換算調整勘定	△1,442	△7,799
包括利益	△466,141	221,659
(内 訳)		
親会社株主に係る包括利益	△466,141	221,659
非支配株主に係る包括利益	—	—



## 各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動における資金の増加は940百万円(前年同期は66百万円の増加)であります。主な資金の増加要因は、税金等調整前当期純利益311百万円、棚卸資産の減少473百万円であります。また主な資金の減少要因は、売上債権の増加111百万円、その他の資産の増加109百万円、法人税等の支払額79百万円となっております。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動における資金の減少は340百万円(前年同期は279百万円の減少)であります。主な資金の減少要因は、有形固定資産の取得による支出122百万円、無形固定資産の取得による支出262百万円であります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動における資金の減少は987百万円(前年同期は109百万円の増加)であります。資金の増加要因は、長期借入による収入1,200百万円であります。また資金の減少要因は、短期借入金の純減額1,350百万円、長期借入金の返済による支出836百万円であります。

# 連結株主資本等変動計算書 (2023年6月1日から2024年5月31日まで)

(単位：千円)

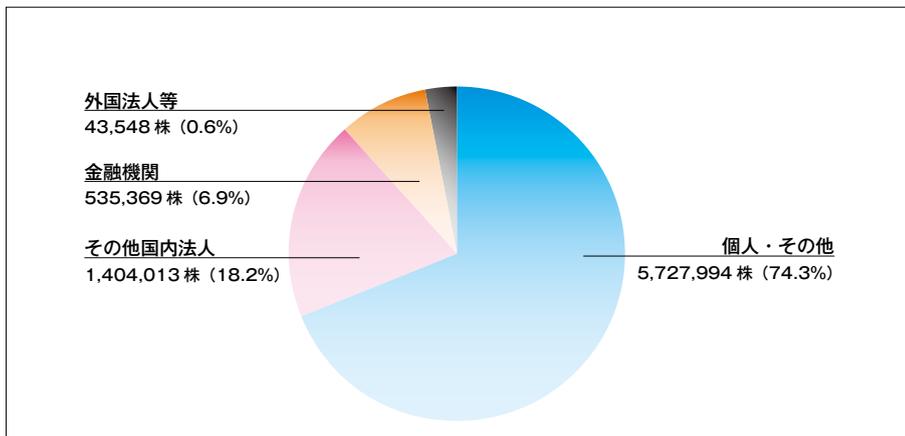
株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	620,949	681,430	846,187	△228,211	1,920,355
当期変動額					
剰余金の配当					
親株式会社株主に帰属する 当期純利益			229,458		229,458
自己株式の処分		379		8,889	9,268
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)					
当期変動額合計	－	379	229,458	8,889	238,727
当期末残高	620,949	681,809	1,075,646	△219,322	2,159,082

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	為替調整	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△2,344	△2,344	52,384	1,970,395
当期変動額				
剰余金の配当				
親株式会社株主に帰属する 当期純利益				229,458
自己株式の処分				9,268
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)	△7,799	△7,799	△31,077	△38,876
当期変動額合計	△7,799	△7,799	△31,077	199,850
当期末残高	△10,144	△10,144	21,306	2,170,245

(1) 株式に関する事項

- ① 発行可能株式総数 31,065,600 株
- ② 発行済株式の総数 8,308,000 株 (自己株式 597,076 株を含む)
- ③ 株主数 10,704 名

(2) 所有者別状況



(注) 自己株式 (597,076 株) を控除しております。

(3) 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
株式会社AM	1,196,000	15.51%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	212,900	2.76%
野村證券株式会社	153,100	1.98%
アイケイ取引先持株会	152,000	1.97%
飯田裕	146,200	1.89%
飯田清子	133,100	1.72%
鬼頭洋介	116,500	1.51%
飯田悠起	112,700	1.46%
山中亜子	110,700	1.43%
栗田和代	93,000	1.20%

1. 持株比率は自己株式 (597,076 株) を控除して計算しております。
2. 持株数は株主名簿に基づいて記載しております。

## ■韓国コスメのブーストアップ

韓国コスメのブーストアップを図るため、売り場の拡大と新たなブランド獲得に向けたブランドホルダーとの交渉を進め、日本国内における正規代理店契約の拡大に努めてまいりました。また、各ブランドの特徴を最大限に活かしながら、エンドユーザーに響く販促活動に取り組んでまいりました。

### ◆ブランド一部紹介

**SKINFOOD**  
1957

**OLIVE YOUNG**  
PB COSMETICS

**ma:nyo**

**hince**

**AROMATICA**

### ◆販促一部紹介



hince名古屋店



コスメキッチン(AROMATICA)

## ■セールスマーケティング事業の強化

セールスマーケティング事業では主力販路である生協チャネルでの化粧品カテゴリーを強化する為、自社ブランド化粧品の拡販や生協チャネル限定商品の開発・販売に注力してまいりました。また、セールスマーケティング事業全体の強化として、韓国コスメブランドの拡販、著名コスコスメブランドの展開を進めてまいりました。

### 自社ブランド



Tottito



Cocoeggシリーズ

### 著名ブランド

五島の椿



「MTG・五島の椿」

BOTANIST YOLU



「BOTANIST」「YOLU」

## ■ 自社開発商品 ラインナップ

### ◆ 食品



果肉たっぷりいちごミルクの素



熟成黒にんにく



ひとり分の参鶏湯風



プラセンタinコラーゲン1300

### ◆ 化粧品



BIOHEAL BOH



ma:nyo



Tottimo



Cocoeggシリーズ

### ◆ 雑貨



Medi feel 立体エアレッグ



Medi feel 立体エアーマット



伊賀の匠



easy-k

## 会社の概要 (2024年5月31日現在)

商号	株式会社 I Kホールディングス (IK HOLDINGS Co., Ltd.)
資本金	620,949 千円
代表者	飯田 裕、長野 庄吾
設立	1982年5月
従業員数	27名 (パート・アルバイト含む)
連結従業員数	195名 (パート・アルバイト含む)
本社	〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目26番8号 KDX名古屋駅前ビル TEL (052) 380-0260 (代表) FAX (052) 856-3120 URL <a href="https://www.ai-kei.co.jp">https://www.ai-kei.co.jp</a>
本店	〒453-0809 名古屋市中村区上米野町四丁目20番地
役員 (2024年8月23日現在)	代表取締役会長兼 CEO 飯田 裕 代表取締役社長兼 COO 長野 庄吾 常務取締役 高橋 伸宜 取締役 (常勤監査等委員) 山本 あつ美 取締役 (監査等委員) 和田 圭介 取締役 (監査等委員) 大庭 崇彦

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで  
定時株主総会 毎年8月中に開催  
剰余金の配当の基準日 期末配当：5月31日 中間配当：11月30日  
証券コード 2722

上場金融商品取引所 東京証券取引所（スタンダード市場）  
名古屋証券取引所（プレミアム市場）

株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-243-711（通話料無料）  
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公 告 方 法 当社の公告方法は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載して行うこととしております。  
<電子公告掲載ページアドレス> <https://www.ai-kei.co.jp/ir/koukoku>

## (ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)に、お問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

